

「卒業証書授与式」



画家 元永定正作 壁画「しぜんのなかで」

3月6日（月）から終了式まで

3月6日（月）から仮設校舎2棟での3学年そろっての平常授業となった。

掃除、学活のあと授業開始となった。

卒業証書授与式

この頃から、13日（月）の第21回卒業証書授与式に向けて、具体的な準備をはじめた。体育館は避難所となっているため使用せず、3年生にとって、大震災以降始めて授業を行った、思い出深い南校舎の6普通教室を使用して執り行うこととなった。

学校長が各教室をまわり、卒業証書を一人一人の生徒に手渡すことにした。何もない中で、できる限り心のこもった式となるように、各教室を体育館と同じ式場に見立てて演台を設け、教職員総出で、式場正面看板、式次第、紅白幕、生花をそれぞれの教室へ飾り付けた。幸いにもテレビ放映用の双方向システムが生きていたため、それらを利用し、卒業式の一体感を共有するため、テレビカメラも各教室へ移動させ、その情景を教室のテレビで放映した。学校長の言葉、卒業生単立ちの言葉、卒業生を送る言葉は、会議室からテレビカメラ通して卒業生へ伝達した。

はじめての体験であったが、生徒・教職員ともに非常に感慨深い卒業式であった。こうして268名の第21回生を無事卒業させることが出来た。（1名のみ転出先の中学校で卒業した。）

17日（金）には避難者数が61名と減少した。避難されている方々には、体育館から格技室へ移動していただけることになった。22日には簡易給食も終了した。



終了式

25日（土）平成6年度の終了式を迎えた。3月25日開幕した、選抜高校野球大会の始球式に来られる**与謝野馨文部大臣**が、被災地視察のため本校へ来られることになった。始球式後12時35分に到着されることが分かった。そこで終了式を12時40分から始めることにし、文部大臣の臨席をお願いした。このような経験は、生徒たちの人生の中でも滅多にないことである。大臣も快く引き受けてくださり、学校長以下感激の極みであった。

与謝野馨文部大臣をはじめ、兵庫県教育長、西宮市教育長以下県市の多くの教育関係者から激励の言葉をいただき、生徒の心に一生残るものとなった。文部大臣からは記念の色紙をいただき、本校の希望として大切に保管している。

与謝野馨文部大臣激励の言葉

今日は皆さま方の学年末の終了式にあたり、一言激励の言葉を申し上げたいと思います。

1月17日、突然やってきたあの大地震。皆さま方は、本当にご家族方とともにあれ以来、大変な苦勞をされてきたことと思います。

特に、私たちとしては五千四百名を超える犠牲者を出し、本当に大変なこの大震災でした。

犠牲になられた方々に心から、私はご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。そして、なお多くの方々が、学校をはじめとした多くの施設で避難生活を送っておられます。この上ヶ原中学校でも、非常に不自由な生活をしておられる方々がたくさんおられるわけでございます。

しかしながら、この大震災から学ぶべき事はたくさんあります。

まず、いろんな困難な問題に遭遇した中で、多くの児童・生徒が互いに助け合うということを学んだことであります。学用品をお互いに融通しあったり、また学校同士が、午前中は自分たちの学校の授業、午後はよその学校の

授業、そういうこともありました。また全国の学校に行っている児童・生徒のみなさんが、自ら自分たちの学用品や教科書や参考書を被災地の学校に届けるという、そういう行動も行いました。私は、困った時にある助け合いと

いう大事な精神が、ここでみんなで育てられたと考えております。

また、学校では、校長先生が学校におられる先生のみなさんと手を携えて、避難所の中の被災された方々のために一生懸命働きました。全国からたくさんのボランティアの人たちがこの街にやって来られました。私は、私たちの独特のいいところがはっきりと出たこの2ヶ月だったと思っております。

2ヶ月間にわたって、授業時間も少なく、皆さま方もなお不自由な中で勉強を続けてこられた訳でございますが、決して永い人生にとっては、この体験はマイナスになりません。この苦しい体験で、将来に向かって、皆さま方が一歩ずつ前進して行くことを、心から期待を申し上げたいと思います。

春休みになりました。どうか皆さん、ご家族と一緒に、この長い2ヶ月間の苦勞を振り返りながら、将来に向かって、新しいスタートを切っていただきたいと思います。

校長先生をはじめ教師の先生方の、皆さま方のご健康もお祈り申し上げたいと思いますし、今日お集まりの生徒の皆さんの、来年度に向けてのいっそうのご奮闘とご多幸とを期待いたします。

今日は、終了式おめでとうございます。